

会 議 録

会議名		令和7年度 第4回清新地区まちづくり会議		
事務局 (担当課)		中央区役所 中央6地区まちづくりセンター 電話042-707-7049 (直通)		
開催日時		令和7年10月15日(水) 19時00分～20時30分		
開催場所		清新公民館 大会議室		
出席者	委 員	18人(別紙のとおり)		
	事務局	3人(中央6地区まちづくりセンター所長ほか2名)		
公開の可否		☒ 可 ☐ 不可 ☐ 一部不可	傍聴者数	なし
公開不可・一部不可 の場合は、その理由				
会議 進行表		1 開 会 2 会長あいさつ 3 市からの情報提供 3-1 本市の廃棄物行政の現状と課題(廃棄物政策課他) 3-2 相模原市地域活性化事業交付金の見直しについて 4 議 題 4-1 令和7年度地域活性化事業交付金の申請について 4-2 発災時の自助・共助について(グループワーク) 5 参加者間情報提供・共有 6 閉 会		

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。

1 事務局が開会

2 会長あいさつ

丹波会長よりあいさつが行われた。併せて10月5日に行われた清新ふれあいフェスタへの協力に対するお礼と来場者数等について報告がされた。

3 市からの情報提供

3-1 本市の廃棄物行政の現状と課題（廃棄物政策課他）

廃棄物政策課職員から当日配付された資料に沿って説明が行われた。委員からの質問と市の回答は以下のとおり。（○は委員の発言、●は市職員の発言）

○政令指定都市の家庭系ごみ量のグラフを見ると、一人一日あたりの量が大阪市や京都市は少なく、静岡市が多い要因は何か。相模原市も努力すれば大阪や京都のようになるのか。

●量が少ない市では、本市でも来年から始める予定のプラスチックの一括回収を既に実施していたり、京都市では家庭ごみの有料化を行ったりしていることなどが考えられる。また、本市の場合、ごみの分別の区分で、木の枝は本来資源化できるところ、受け入れ先の確保ができておらず、ごみとして燃やしている。そのようなことの積み重ねで差が出ていると思う。市民生活が大阪・京都と相模原で大きな違いはないと思うので、行政の施策を分析し、更なるごみの減量化に向けて取り組んでいく。

3-2 相模原市地域活性化事業交付金の見直しについて

事務局から事前配付した資料に沿ってに説明が行われた。委員からの質問と市の回答は以下のとおり。（○は委員の発言、●は市職員の発言）

○今年度3年目の事業だけが対象なのか。今年度から始まる事業も対象となるのか。

●どちらも対象となる。

○予算は増えたのか、それとも執行率が低いのか。

●予算は増えていない。令和5年から6年にかけて、中央区の予算は1,800万円、各地区200万円だったものが、中央区全体で1,000万円になった。今年度も1,000万円の予算を9地区各100万円の配分とし、残りの100万円は区留保分として運用している。

そもそも使い勝手が悪い制度だという意見を、以前より市議会や補助金の交付を受けた団体から頂いていた経緯があり、より使い勝手のよい、小回りの利くように制度改正がされたものである。

4 議題

4-1 令和 7 年度地域活性化事業交付金の申請について

- ・ 食品ロスの削減について

清新地区まちづくり会議環境整備班における検討状況について、丹波会長より配付資料に沿って報告が行われた。委員からの意見は特になく、継続して検討することとなった。

- ・ 清新防災フェスについて

齋藤委員より資料に沿って説明が行われた。主な意見や質問は以下のとおり。

○この事業は5年続けて行うのか。

⇒○今回の内容と成果による。今年は例年行っていた自主防災協議会の地区内各避難所と本部で行っていた合同訓練に代えて本フェスを実施する。フェスと訓練をどのように並行して行うかも踏まえて来年度以降のことを決める予定である。

<結果>

積極的に採用すべき事業とする。

4-2 発災時の自助・共助について

「自助班」と「共助班」に分かれてグループワークが行われた。両班とも災害後にすべきことを中心に検討した。

①自助班の主な意見

- ・ 自らの安全確保
- ・ 家族の安否確認 事前に方法を話し合う
- ・ 家の安全・被害状況確認
- ・ ライフライン（電気・水・ガス）の確認
- ・ 水が出れば貯める
- ・ 隣近所の安全・被害確認

②共助班の主な意見

- ・ ご近所の安否確認
- ・ 高齢者、障がい者のネットワークづくり
- ・ 水関係のチェックが最優先
- ・ 情報の共有（電気・水・ガスが止まってもインターネットは使用できる）
- ・ マンションこそ共助が大切（高齢者が多い）
- ・ ご近所間での小さな救助（例えばドアが開けにくくなった場合の支援等）
- ・ 東日本大震災の経験をもとに行動する
- ・ 東日本大震災の経験の継承が大切であり、未経験の人には伝えていくことが必要
- ・ 事前に準備していたことを忠実に実行する

- ・住民だけではなく、地域で働く人との共助の実践（帰宅困難者などを含める）
- ・災害が起きる時間帯も想定して行動

各班の発表後に出た意見や質疑応答は以下のとおり。

○昼間、児童が学校に行っている間に大地震が起きた場合、家族・地域・児童の関わり合い、特に自治会運営にかかわっている者として、どのように児童と関わっていけばいいのか。

⇒○基本的に児童は学校にとどめる。各家庭に迎えに来ていただき、全員が帰るまで職員も学校に残る。近いところに住む生徒で親等が家にいることが分かっているならば、その生徒を送り届けることもあるかと思う。

○生徒が待機している中で、地域の避難住民を受け入れることはできるのか

⇒○例えば、避難所としての清新小学校の避難可能人数と学区の人口を比べると、全員が清新小学校に避難してくることは不可能である。さらに帰宅困難者も受け入れるとなるとなおさらである。在宅避難できる方にはできるだけそうしていただくことになると思う。何かあったら避難所に行くという感覚の人が多いと避難所の収容可能人数には収まらなくなる。

4 参加者間情報提供・共有

(1)事務局からの情報提供

- ・本年度清新地区の地域活性化事業交付金事業の「みなはし歌声広場プロジェクト」について、定例的な開催場所である南橋本自治会館ではない、清新7丁目所在の特別養護老人ホームにおいて、清新地区包括支援センター協力のもと歌声広場が開催された旨報告された。
- ・同様に本年度3年目となった交付団体 KidsFine より、今年の相模原市SDGsアワードに受賞予定となったとの連絡があった旨報告された。

(2)委員間の情報共有

○廃品回収業者のチラシが迷惑である。すべてを回収せず、価値のあるものだけ持っていく。皆さんはお困りではないか。

⇒○確かにそれに関する詐欺は増えている。いかに断るかだと思う。

⇒○配っている人にチラシを配らないように直接言っても配りに来る。

⇒○高齢者の相談の中には、自分が担当した方で約200万円、他のケアマネジャーの話では約400万円の被害があったということがあった。被害を申告しない方も含めると相当な被害額に及ぶと思う。清新地区のケアマネジャーの間ではこの手の被害が多いことは共通認識している。

5 閉 会

神谷副会長が閉会

以 上

第4回清新地区まちづくり会議出欠席名簿

	氏名	所属	役職等	出欠席
1	丹波 晴道	清新地区自治会連合会	会長	出席
2	大山 孝	清新地区自治会連合会	副会長	出席
3	早川 久子	清新地区自治会連合会	会計	出席
4	齋藤 直樹	清新地区自治会連合会	会計	出席
5	山口 敏夫	清新地区社会福祉協議会	会長	出席
6	服部 裕明	清新地区社会福祉協議会	理事	出席
7	田所 洋子	清新地区社会福祉協議会	会計	出席
8	神谷 静枝	清新地区民生委員・児童委員協議会	会長	出席
9	浅見 治平	清新地区民生委員・児童委員協議会		出席
10	木下 泰雄	清新公民館	館長	出席
11	高柳 博文	清新公民館	スポーツ 推進委員	出席
12	山中 森勝	清新地区老人クラブ連合会	会計監査	欠席
13	片平 真	小山中学校	校長	出席
14	篠原 真	清新小学校	校長	出席
15	小野 真輔	清新小学校PTA	副会長	出席
16	佐藤 勝美	清新地区子ども会育成連絡協議会	ジュニア リーダー担当	出席
17	磯崎 巧	防犯指導員		出席
18	片野 十二	清新公民館区青少年健全育成協議会	会長	欠席
19	菅原 聡	清新地域包括支援センター	センター長	出席
20	岩川 真之介	相模原中央商店街協同組合	理事	出席